

用語説明

あ

圧送管バックアップシステム【あつそうかんばつくあつぷしすてむ】→P13

汚水送水管や汚泥圧送管といった圧力状態の管路について、災害時に管路の一部が破損した場合でも送水が補えるよう複数のルートを確保するもの。

い

一般会計繰入金【いっばんかいけいくりいれきん】→P24

維持管理費や企業債元利償還金のうち、雨水処理に係る経費など、一般会計（地方公共団体において市民サービスの提供を始めとする、行政運営の基本的な経費を計上している会計）が負担する経費相当分を下水道事業会計に繰り入れるもの。

イントラネット【いんたらねっと】→P22

インターネットの技術を利用した、組織内の情報通信網。

う

雨水拡充管【うすいかくじゅうかん】→P3

大雨が降った時に、既設の下水道管の排水能力を超えた雨水を流す管。

雨水ポンプ場【うすいほんぶじょう】→P3

下水道管で集めた雨水を、ポンプで河川へ放流する施設。

雨水流出抑制【うすいりゅうしゅつよくせい】→P12

大雨が降った時に、その雨水を土の中に浸透させたり（雨水浸透）、一時的に貯留すること（雨水貯留）により、下水道や河川などに水が一気に流出しないようにすること。

雨水流出量【うすいりゅうしゅつりょう】→P12

地上に降った雨のうち、下水道管に流れ込む量。

雨天時下水活性汚泥法【うてんじげすいかつせいおでいほう】→P14

雨天時に沈殿処理放流分の全量又は一部を反応タンク後部から流入させて生物処理することにより、公共用水域に放流する負荷量を削減する下水処理法。

お

OJT【おーじえーていー】→P22

On the Job Trainingの略。現場で実際に仕事に携わりながら実施する教育。

汚水調整池【おすいちょうせいち】→P17

流入下水の水量及び水質の変動を吸収し、均一化することによって処理施設の処理効率を高め、処理水の水質の向上を図る目的で設ける汚水を滞留させる施設。

汚泥【おでい】→P2

水再生プラザ、浄水場、工場廃水処理施設などから発生する泥状の物質の総称。

汚泥圧送管【おでいあつそうかん】→P12

汚泥を集中処理するために、各水再生プラザからスラッジセンターへ汚泥を圧力で送るための管のこと。

か **改良埋戻材**【かいりょうめもどしざい】→P15

脱水汚泥の焼却により発生した焼却灰などを土砂と混合した再生土。土木工事の埋戻しに利用されている。

元利償還金【がんりしょうかんきん】→P24

地方債などの借入金に係る返済金。元金償還金と支払利息から構成される。

き **企業債**【きぎょうさい】→P23

地方公営企業の施設の建設などに要する資金に充てるために発行する地方債のことであり、公的機関（国、地方公共団体金融機構）及び民間機関（銀行など）が引受先となっている。

け **下水道普及率**【げすいどうふきゅうりつ】→P1

処理人口普及率ともいい、対象とする区域内の総人口に対して下水道を利用できる人口の比率のこと。

下水熱エネルギー【げすいねつえねるぎー】→P15

下水の水温は大気と比べ年間を通して安定しており、夏は冷たく、冬は温かい性質があるため、下水とその周囲の温度差を活用したエネルギーのこと。

下水熱ポテンシャルマップ【げすいねつぽてんしゃるまっぷ】→P15

民間事業者への下水熱利用を促進させるため、下水が有するエネルギーの熱量や位置が把握できるように地図に示した資料。

こ **公共ます**【こうきょうます】→P10

家庭や工場などから排出される下水を集水するもので、排水設備と公共下水道の接点となる施設のこと。

高度処理【こうどしより】→P14

通常の処理（標準活性汚泥法）よりも下水をきれいにする処理方法のこと。

合流式下水道【ごうりゅうしきげすいどう】→P3

汚水と雨水を同じ下水道管で運ぶ方式。分流式に比べて下水道管の建設費が安くすむが、大雨のときに汚水が処理されないまま川や海へ放流されてしまうことが課題。⇔分流式下水道

し **社会資本整備総合交付金**【しゃかいしほんせいびそうごうこうふきん】→P21

国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く創意工夫を生かせる総合的な交付金として、平成22年度に創設。

す **スクリーン**【すくりーん】→P30

下水中のゴミが河川などへ流出することを防止するための設備。

ステップ流入式硝化脱窒法【すてっぷりゅうにゅうしきしょうかだつちつほう】→P14

高度処理方法の一つ。下水を分割して流入（ステップ流入）させることにより、汚濁負荷を均一化し、窒素除去の効率を高める方法。

スラッジセンター【すらっじせんたー】→P2

各水再生プラザで発生する汚泥（スラッジ）を処理する施設のこと。

ち **超微細気泡散気装置**【ちょうびさいきほうさんきそうち】→P4

下水をきれいにする微生物に必要な酸素を溶けやすくするために、反応タンクの中で、小さな気泡を発生させる装置。酸素を溶かすための送風量が抑えられ、電力使用量を削減することができる。

と 取付管【とりつけかん】 →P6
公共ますと下水道本管をつなぐ管のこと。

に 二条化【にじょうか】 →P12
2つの施設間を2つの異なるルートでつなぐこと。

は パブリックコメント【ぱぶりっくこめんと】 →P26
条例や計画などの一定の政策の策定に際して、政策の案と資料を公表し、それに対する意見や情報を広く募集し、寄せられた意見などを考慮して政策を決定するとともに、その意見などに対する考え方などを公表すること。

ひ BOD【びーおーでいー】 →P1
Biochemical Oxygen Demand（生物化学的酸素要求量）の略。水中の汚濁物質などが生物化学的に分解される際に消費される酸素量のこと。この数値が大きいと、水質が汚濁していることを示す。

BCP【びーしーぴー】 →P13
Business Continuity Planの略。自然災害など、予期せぬ事態が発生したときでも、業務を継続できるようにするための計画。

ふ 不等沈下【ふとうちんか】 →P11
地表面が不均等に沈むこと。不同沈下ともいう。

ほ ポンプ場【ほんぷじょう】 →P2
埋設される下水道管が地下深くなると維持管理などが困難となるため、下水を地表近くまでくみ上げ再び自然流下させるための施設。

み 未償還残高【みしょうかんざんだか】 →P23
まだ返済していない企業債の総額。

水再生プラザ【みずさいせいぷらざ】 →P2
札幌市では平成19年度から、下水を処理するための施設（下水処理場）を水再生プラザと呼んでいる。

よ 揚水機能【ようすいきのう】 →P12
ポンプで水をくみ上げる機能。

る 累積資金残高【るいせきしきんざんだか】 →P23
事業の運営により発生した過去からの資金残高。

ループ化【るーぶか】 →P12
複数の施設間を循環するルートでつなぐこと。

わ ワークショップ【わーくしょっぷ】 →P26
ある課題に対して、さまざまな立場の人々が集まり、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら意見や提案をまとめ上げていく場。一般的には、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するように運営される。